

代表質問

県の基本的姿勢

(新政みえ／桑名市・桑名郡選出)

三谷 哲史 議員



問

県は、国家戦略特区に係る関係団体などに説明のないまま国に提出しました。三重県中小企業振興条例（仮称）の策定に当たっては、議会の意見を十分に聴かず11月にパブリックコメントを実施しようとしていますが、また、「県政だよりみえ」のデータ放送化については、「情報」は取りに来い」という姿勢が感じられます。県の姿勢が県民不在、議会軽視に陥っているように思いますが、知事のご所見をお伺いします。

答

特区提案の議会への報告に際し、一部報道が先行しましたが、計画を取りまとめる際には、議会などへ丁寧に説明を行います。三重県中小企業振興条例（仮称）については、今後、議会の意見も踏まえて中間案を作成し、パブリックコメントを行う予定です。県政情報については、県民の皆さまのご

意見などをお聴きしながら、しっかりと情報提供できる広報の実施に努めます。
今後、改善すべきは改善し、的確に対応していきます。
その他の質問事項
○米の産地偽装 ほか



県農政の方向性と農地集積の推進

(自民みらい／四日市市選出)

永田 正巳 議員



問

国は、新たな成長戦略の取り組みとして位置付け、「農地集積」、「6次産業化」、「輸出

促進」の3つの戦略方向を打ち出すなど、日本農業最大の転換期といえる状況です。この動きを踏まえ、県は、どのように本県農業の成長戦略を展開させていきますか。

また、国は農地集積の仕組みとして新たに「農地中間管理機構（仮称）」を検討していますが、県は今後どのように農地集積を進めていきますか。

答

県としても、国から打ち出された3つの戦略方向を中心に、農業の成長産業化について取り組んでいきたいと考えています。特に農地集積については、近年、その伸びが鈍化しています。現在、検討されている「農地中間管理機構（仮称）」は、農地の受け手の公募など新たな取り組みを行うと聞いていますので、その設置をきっかけに、農地集積を加速させていきたいと考えています。



農地集積による担い手農家の耕作の様子

○少子化対策 ほか

一般質問

新北市と姉妹都市提携を

(自民みらい／津市選出)

青木 謙順 議員



問

台湾の①新北市三重区（旧三重市）とは、2008年に本県議会との友好協定を締結し、昨年4月には、新北市とその友好協定を新たに発展させていく方向を確認しました。また、5月に開催された日台観光サミットにおける「三重宣言」では、地域間観光交流の推進がうたわれました。この機会に新北市と姉妹都市提携を進めてはいかがでしょうかですか。知事の考えをお伺いします。

答

新北市とは、まず、10月下旬に観光協定締結に至るといふことで、ほぼ合意をしています。

私は、この締結に合わせ台湾を訪問し、台湾最大の人口400万人のマーケットである新北市との観光交流促進のため、トップレベルでの人脈づくりを行いたいと考えています。

○乗って楽しい名松線 ほか